

(2) 北海道白老東高校の資料

- 白 1 令和3年度 北海道 CLASS プロジェクト実施計画書（1年次）《第1次》
 - 白 2 令和3年度 北海道 CLASS プロジェクト実施計画書（1年次）《第2次》
 - 白 3 令和3年度 北海道 CLASS プロジェクト実施報告書（1年次）
 - 白 4 令和4年度 北海道 CLASS プロジェクト実施計画書（2年次）
 - 白 5 令和4年度 北海道 CLASS プロジェクト実施成果報告書（2年次）
 - 白 6 令和5年度 北海道 CLASS プロジェクト実施計画書（3年次）
 - 白 7 全道地学協働活動研究大会発表資料
 - 白 8 令和5年度 北海道 CLASS プロジェクト実施成果報告書（3年次）
-

令和 3 年度 北海道CLASSプロジェクト実施計画書（1 年次）《第 1 次》

学校名	北海道白老東高等学校
作成日	令和 3 年 6 月 3 0 日

1 課題把握

(1) これまでの学校と地域の関係・取組

- 選択科目「地域学」における連携
 - ・白老町教育委員会、白老町アイヌ総合政策課およびアイヌ民族文化財団、国立アイヌ民族博物館との連携により、高校生がウポポイのPRするならをテーマに動画を作成。
 - ・白老町役場、白老町教育委員会、アイヌ民族文化財団、白老アイヌ協会との連携によりアイヌ文化や地域の理解に関する外部講師による出前授業を実施。
 - ・地域人材を活用し、情報発信に向けた映像企画や撮影に向けたディレクションに関する講習を実施。
 - ・白老でフィールドワークを実施している名古屋外国語大学世界共生学部との連携を通して、地域やアイヌ文化の魅力を伝えるための成果発表を実施。（令和 2 年度はオンラインによる交流を実施）
- 選択科目「生活と福祉」における連携
 - ・社会福祉協議会との連携による講話、手話・点字実習
 - ・白老町との連携による、認知症サポーター養成講座の受講
 - ・消防署との連携による、救急救命講習
 - ・子ども発達支援センター、幼稚園、老人施設との交流
- 進路における連携
 - ・白老町経済振興課との連携により、地元企業による合同企業説明会を実施。
 - ・地元企業との連携によるインターンシップ。

(2) 現状における課題

- ・白老町は人口減少や高齢化が進む中、令和 2 年にオープンした民族共生象徴空間ウポポイと一体となった観光・経済振興への取組の充実を図ること。
- ・本校はこれまで白老町教委との関係を軸に、令和 2 年度はアイヌ民族文化財団と連携し、ウポポイを活用したアイヌ文化学習に筋道をつけることができたため、今後より持続可能な連携体制を構築すること。
- ・本校は白老町内唯一の公立高校であり、生徒が地元就職し地域を担う人材の育成と地域の文化や魅力を継承し外部に発信できる人材を育成すること。
- ・このような人材育成に向け、地域の歴史、文化、産業、アイヌ文化や民族共生についての理解を通して地域への愛着を深めるためには、学校内だけでなく、地域の関係機関等との連携が必要不可欠であり、「地域で学ぶ」ための連携体制の構築をすること。
- ・本校は、少子高齢化過疎化等の影響を受け、入学者の定員割れが恒常化しつつあり、学校ならではの学びを推進することで特色を出し、地域の高校としての存在

資料 白 1

意義を高めること。

- ・本校には、学習に苦手意識を持つ生徒や自己肯定感の低い生徒のほか、自己の将来や社会との繋がりを見いだせない生徒も在学している。このような生徒に学ぶ楽しさを体感させることで、基礎学力や課題解決能力を向上させ、将来社会で活躍し続けられる人材を育成すること。
- ・そのためには体験学習や探究学習など多様な学びによって、生徒の学びに向かう意欲を向上させるとともに、地域をテーマとした探究学習の充実を図り、カリキュラムを開発すること。
- ・地域課題探究学習やアイヌ文化学習を進める上で、地元の小中学校での学びを継承した学習プログラムを構築すること。
- ・「総合的な探究の時間」を組織的、継続的に取り組むための校内体制づくりや、教科横断的なカリキュラムを開発すること。

2 仮説検討・テーマ設定・目標設定

(1) 研究仮説

- ・地域の課題を共有し、自ら解決方法を考える学習や、情報発信する取組を通して、地域への愛着が深まり、地元への就職希望者が増加し、地域に貢献しようとする人材が育つだろう。
- ・アイヌ文化への理解や興味を深め、その魅力に気づかせることにより、アイヌ文化を尊重し、未来に伝承していきたいと思う生徒が育つだろう。
- ・民族共生について考察させることにより、多様な文化や考えを持つ人を受け入れられる人材が育つだろう。
- ・課題探究や情報発信の企画をグループで協力して進めることで、他者と協働して課題を追求したり解決したりする学びの力が身に付くだろう。
- ・学んだ知識を活用し、課題を探究したり情報発信の方法を考えさせたりする中で、生徒の創造性や主体性が育つだろう。
- ・自分たちで情報発信したり、地域に貢献したりする体験を通し、自己肯定感や自己有用感が育つだろう。
- ・地域の教育資源を活用し、生徒が主体的に学ぶ学習活動の推進を通して、本校の目標とする生徒の資質・能力が育成できるだろう。

※期待する生徒や学校、地域の変容

- ・地域への愛着が深まり、白老町内に就職したり地元で貢献したいと考えたりする生徒が増えること。
- ・アイヌ文化への理解を通し、その魅力を多くの人や未来に伝えたいと思う生徒が増えること。
- ・民族共生について考察する中で、興味を持って知ること、理解することの大切さに気づく生徒が増えること。
- ・体験学習や探究学習など多様な学びの中から学びの面白さを見出し、学習意

資料 白1

<p>欲を高める生徒が増え、その結果、生徒の学力が向上する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が親や教員以外の地域の大人たちと関わりを持ちながら多様な価値観や実社会の現実に触れながら考察し、自分の中に落とし込めるような学びを通して、生徒を変容させること。 ・生徒が地域に出て、学習活動を行うことで、教員とだけでは体感することができない実社会と深く関わる学習活動を通して、実社会を構成する高校生であることを認識させ、行動を変容させること。 ・生徒が地域での活動を通して学んだり、情報発信したりすることによって、地域が本校の存在により関心を持ち、白老町内からの入学者が増加することが期待される。 ・未来を担う高校生の視点から地域の情報発信や課題について取り組むことで、地域に刺激を与え、地域の活性化のために貢献すること。 <p>※検証方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒への地域やアイヌ文化学習に関するアンケートを実施し、意識の変化を検証。 ・生徒の変容に関する定量的評価（ループリック、ポートフォリオ評価等）。

(2) 研究テーマ

<p>「地域課題探究型カリキュラムの研究開発」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力や地域課題を認識し、地域の郷土愛の醸成 ・地域課題解決に向けた探究活動と行動発信

(3) 今年度の目標

<p>「地域で学ぶ」ための教育資源の発掘と連携体制を構築。 「地域課題探究型」のカリキュラム編成と、関連プログラムの実施。</p>

3 研究の具体

(1) 研究内容（選択する項目を■にしてください）

<p><input type="checkbox"/> 「Collaboration」【地域・産業界等との連携・推進】</p> <p>（内容）・白老町経済振興課と連携し、地元企業による合同企業説明会を実施。（※1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町の関連団体、アイヌ関連団体、地域人材と連携し、地域課題の探求や地域の魅力の情報発信に取り組む。（※1、※2） <p><input type="checkbox"/> 「Literacy」【学んだことを将来に生かす能力】（※1、※2）</p> <p>（内容）・地域の課題を探究し解決を図る学習を通して、将来起こりうる様々な課題に活用できるスキルや粘り強く取り組む態度を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ関係団体と連携し、アイヌ文化や民族共生についての学びを通し、将来多様な文化や考え方を受け入れられる人材を育てる。 ・地域の人材と連携し、映像を通じた情報発信の企画方法を学ぶことで、将来映像を使った情報発信能力を育てる。 <p><input type="checkbox"/> 「Adult」【多くの大人が子どもと一緒にあった取組の推進】（※1、※2）</p> <p>（内容）・親や教員以外の地域の多様な人々との関わりを通して、多様な価値</p>

資料 白1

観や現実に触れ、自分事として考察させる取組の実践。
また、地域おこし協力隊など自ら考えて地域に入りアクティブに行動する人の行動様式を学ぶ。

□ 「Student」 【生徒理解に基づく指導の充実】（※1、※2）

- （内容）
- ・地域の多様な価値観を持つ人々との関わりを通して、生徒の自己探求を促進し、自己の可能性を開発させる。
 - ・地域の情報発信や課題解決に向けて地域に貢献する活動を通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を高めさせる。
 - ・生徒による情報発信の企画や課題探究をグループ内で協力して進め
る中で、他者と協働して追求したり解決したりする学びを行う。

□ 「System」 【学校と地域の連携・協働の仕組みづくり】（※2、※3）

- （内容）
- ・地域課題を解決する取組を持続可能とするため「地域コーディネーター」を活用し、学校と地域の連携・協働する体制を構築する。

- | | | |
|---|--|---|
| { | ※1 … 1・2年生における「総合的な探究の時間」
※2 … 3年生の選択科目「地域学」
※3 … 将来的に「総合的な探究の時間」において全学年 | } |
|---|--|---|

(2) 研究成果の普及方法

- ・地学協働活動フォーラムへの参加による成果発表
- ・全道地学協働活動研究大会への参加による成果発表
- ・学校ホームページによる研究成果発表

(3) 研究のイメージ（概要等）

別紙「地域課題探究型カリキュラムの研究開発」参照

資料 白 1

(4) 研究組織

① コンソーシアム構成図

別紙「白老東『地学協働コンソーシアム』概念図（案）」参照

② 校内体制

職 名	氏 名	担当教科・分掌等
校 長	高野 隆広	
教 頭	三橋 孝臣	
教 諭	志田 健	地歴・公民科 教務部
教 諭	加藤 超	理科 生徒指導部
教 諭	川俣 育幹	理科 教務部
教 諭	酒井 浩一郎	国語 進路指導部
教 諭	小林 剛太	英語 進路指導部
教 諭	佐々木 大介	数学 教務部
教 諭	板坂 操	家庭科 進路指導部
教 諭	辻 猛詩	保健体育 生徒指導部
教 諭	桑島 紘子	音楽 進路指導部
教 諭	工藤 弓佳	地歴・公民科 教務部
教 諭	山田 裕美	保健体育 生徒指導部
教 諭	石川 拓未	英語 生徒指導部
教 諭	坂下 剛教	数学 教務部
教 諭	鮫村 優希	商業 教務部
教 諭	川邊 耕一郎	国語 進路指導部
教 諭	中川 匡史	理科 生徒指導部
養護教諭	阿部 佳苗	生徒指導部
指導実習助手	西村 真理子	教務部

4 その他特記すべき事項

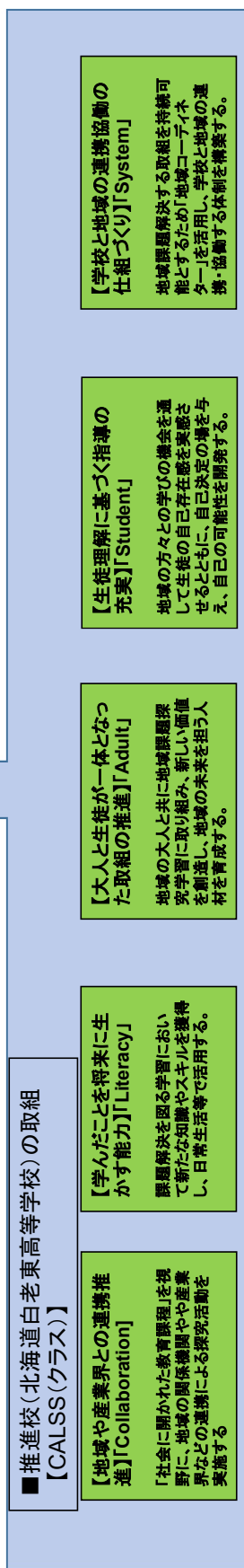
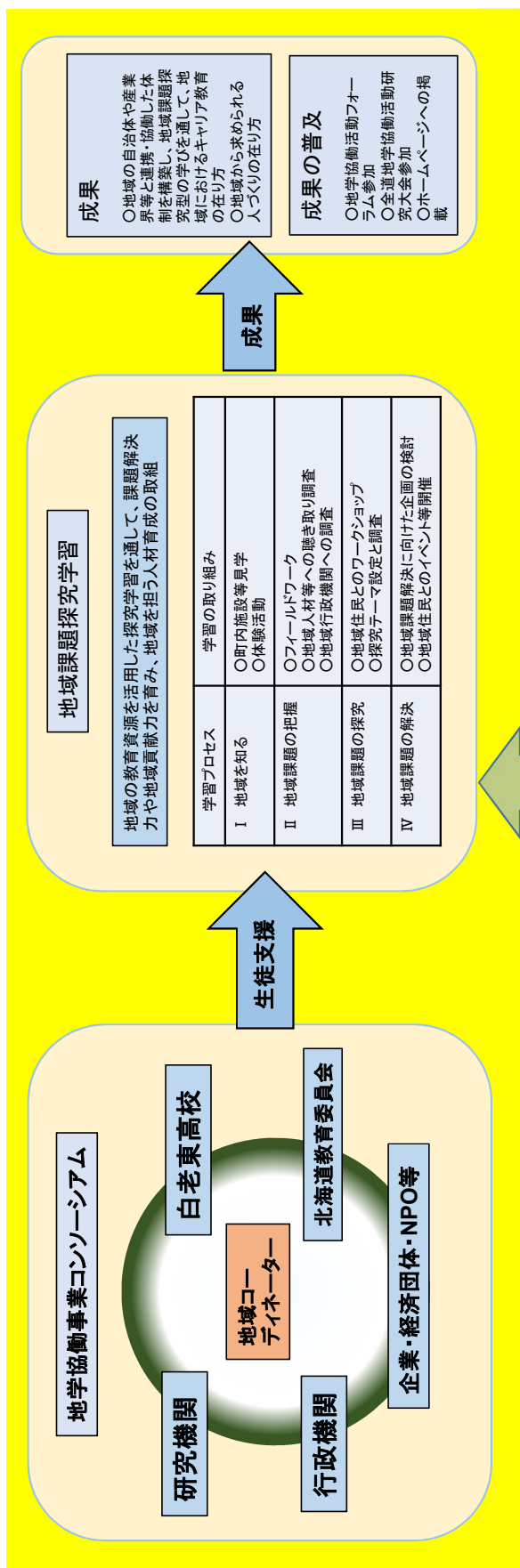
◆ 地域課題探究型カリキュラムの研究開発 ◆

地域課題解決に向けた探究活動と行動発信

地域の魅力や地域課題を認識し、地域の郷土愛の醸成

研究趣旨
 ○ 地域と学校との連携・協働体制を整備し、活動を通じて「まち・ひと・しごと」と「学び」のつながりがづくりに貢献できる取組を実施
 ○ 持続可能な地学協働活動を地域コーディネーターを核とし、高校と自治体や産業界をつなぎ、地域課題探究型のキャリア教育を推進
 ○ 社会教育主事、社会教育士など、社会教育を担う人材が地域の多様な関係機関と学校等をつなぎ、連携・協働プロジェクトの創出・推進を支援

研究課題
 ○ 各研究指定校に配置する地域コーディネーターを中心とした、高校と地域の自治体や産業界等が連携・協働するコンソーシアムを構築する研究
 ○ 地域コーディネーター等による持続可能な地学協働活動の実現に向けた効果的なコーディネーター機能の在り方についての研究
 ○ 高等学校と社会教育関係人材(社会教育主事、社会教育士等)との連携・協働の在り方についての研究
 ○ 生徒と地域の大人が協働した地域課題探究型の学習プログラムについての研究



資料 白2

令和3年度 北海道CLASSプロジェクト実施計画書（1年次） 《第2次》

学校名	北海道白老東高等学校
作成日	令和3年9月30日

1 3年間の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域を知り、興味を深め、地域への愛着が深まることで、地元就職し地域に貢献したい生徒を増やす。 ・ 探究学習など、多様な学びの中から学習へのモチベーションを高め、生徒の学力を向上させる。 ・ 地域に貢献する学びを通して、生徒の自己肯定感や自己有用感を高める。 ・ 地域との関わりを持つ取組を進めることで、地域が本校の存在に関心を高めるとともに、地域に刺激を与え、地域活性化に貢献できるようになる。
--

2 年次ごとの目標と取組計画

月	取組
1年次 (R3)	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の良さや魅力に気付く ・ 地域の課題を把握する <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見学（ウポポイ、元陣屋資料館など） ・ 体験学習（ムックリ製作体験などアイヌ文化体験） ・ フィールドワーク（商店街での聞き取り） ・ 地域の方々との対話交流会 <p>【検証の項目】※定量及び定性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート（選択式・記述式）による地域に対する意識の変化
2年次 (R4) 【予定】	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の課題を把握する ・ 地域の課題を探究する <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フィールドワーク ・ 町役場の各課職員との対話による地域課題の把握、探究 ・ 地域の各産業の方々との対話による地域課題の把握、探究 ・ 地域のガイド体験 <p>【検証の項目】※定量及び定性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート（選択式・記述式）による地域に対する意識の変化
3年次 (R5) 【予定】	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の課題を探究する ・ 地域の課題を解決する <p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アイヌ文化を紹介する動画作成 ・ 地域のPR動画の作成 ・ 地域のガイド活動 ・ 役場職員や地域住民に向けた発表会 <p>【検証の項目】※定量及び定性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート（選択式・記述式）による地域に対する意識の変化

資料 白2

3 今年度の検証の項目と方法

検証の項目	検証の方法
地域に対する興味・関心	アンケート調査による意識の変化
地域への課題意識の向上	アンケート調査による意識の変化

4 今年度（令和3年度）の計画

月	取組
4	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション、アンケート調査 (2時間) ・北海道（アイヌ民族）の歴史 (3時間)
5	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道（アイヌ民族）の歴史 (7時間)
6	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道（アイヌ民族）の歴史 (5時間) ・勾玉作り（体験学習） (2時間)
7	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道（アイヌ民族）の歴史 (3時間) ・ムックリ製作体験（体験学習） (2時間) ・町教委職員による講話（商店街の現状と課題） (1時間)
8	<ul style="list-style-type: none"> ・商店街フィールドワークに向けた事前調べ、演習 (4時間) ・名古屋外国語大学地田准教授によるレクチャー（フィールドワークについて） (1時間) ・名古屋外国語大学の学生とのオンライン交流会 (2時間) <p>○第1回コンソーシアム会議</p>
9	<ul style="list-style-type: none"> ・北洋大学岡田教授によるアイヌ文化学習（アイヌ語について、白老のアイヌ民族について） (2時間) ・映像作成実習 (2時間) ・アイヌ文化を伝えるための調べ学習（テーマ設定） (1時間)
10	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ文化を伝えるための調べ学習（ウポポイ） (2時間) ・アイヌ文化を伝えるための調べ学習（資料調べと映像作成）※ウポポイ学芸員と連携 (2時間) ・町民との対話交流会 (2時間) ・映像企画・撮影講習（地元出身者のプロによる） (2時間) ・商店街フィールドワーク（名古屋外国語大学の学生と協同実施） (2時間)
11	<ul style="list-style-type: none"> ・映像企画・撮影講習（地元出身者のプロによる） (2時間) ・商店街フィールドワーク (2時間) ・商店街での動画撮影と編集 (4時間)
12	<ul style="list-style-type: none"> ・学習成果のまとめと成果発表会に向けた準備 (2時間)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習成果のまとめと成果発表会に向けた準備 (1時間) ・学習成果発表会 (2時間) ・今年度の振り返り、アンケート (1時間) <p>○第2回コンソーシアム会議（成果発表会参観を含む）</p>

5 その他特記すべき事項

--

資料 白3

令和3年度 北海道CLASSプロジェクト実施報告書（1年次）

学校名	北海道白老東高等学校
作成日	令和4年3月17日

1 今年度の検証について

①	検証の項目	地域に対する興味・関心
	検証の方法	アンケート調査による意識の変化
	検証結果	今年度の科目選択者は、例年によりも比較的地域に対する好感度が最初から高い傾向が見られたが、授業前と授業後の比較において「地域に関する学習に興味がありますか」への回答が77%から82%へ、「地域に関する学習は必要だと思いますか」への回答が86%から95%へ、「白老が好きですか」への回答が59%から64%へ、「白老町は魅力あるまちだと思いますか」への回答が55%から68%へと全体的に向上が見られた。

②	検証の項目	地域への課題意識の向上
	検証の方法	アンケート調査による意識の変化
	検証結果	地域課題の提示を受け、それに対して自分たちで貢献する活動を通し、「自分は地域に貢献できることはあると思いますか」への回答が55%から77%へと飛躍的な向上が見られた。

2 今年度（令和3年度）の取組

月	コンソーシアム会議・関係者打合せ等	主な学習活動
4	ウポポイ関係者との打合せ	アンケート調査（事前） 北海道（アイヌ民族）の歴史に関する授業
5	ウポポイ関係者との打合せ	北海道（アイヌ民族）の歴史に関する授業
6		北海道（アイヌ民族）の歴史に関する授業 勾玉製作体験
7	フィールドワークに向けた関係者打合せ 各種団体等を訪問しコンソーシアムの趣旨を説明	ムックリ製作体験 生徒に対し町職員から地域の課題を提示
8	コンソーシアム会議の開催 商店街にフィールドワークの趣旨説明と依頼	フィールドワークに向けての事前準備
9		アイヌ文化を伝えるための調べ学習
10	動画制作に向け商店街への連携依頼	ウポポイでの調べ学習及び取材 アイヌ文化紹介動画の制作 町民との対話交流会 商店街でのフィールドワーク

資料 白3

11	動画制作に向け商店街から改善点等の意見聴取	映像制作講習会 商店街での動画撮影と編集
12		商店街PR動画の編集・制作 学習成果発表会に向けた準備
1	コンソーシアムメンバーより学習成果発表会における感想・助言	学習成果発表会
2		
3	コンソーシアム会議（予定）	

3 組織化に関する検証【推進校のみ】

(1) コーディネーター選出の方針【教育局記入】

学校及び地域住民のニーズに合わせて、域内の人的・物的資源を活用することができる地域の方

(2) コーディネーター選出の方法【教育局記入】

学校が白老町教育委員会に候補者の選出を依頼し、教育局を含めた三者の協議で選出

(3) コーディネーターとの連携

- ・職員室内にコーディネーター専用の机を用意し、事前に設定した来校日に常駐できるようにし、担当者と日常的に連携が図れるようにした。
- ・授業にもできる限り参加してもらい、活動の実態を把握してもらうだけでなく、生徒へ直接アドバイスしたり、生徒が発表する際は見本を提示してもらうなど、活動の補助にも当たってもらった。

(4) コンソーシアム設置に関わっての方針

これまでに連携を構築してきた行政機関や団体に加え、地域で学ぶ学習を展開する上で有効な支援や連携が得られる経済団体や・NPO等をリストアップし、学校や町教育委員会、地域コーディネーターと協議して選出した。

(5) コンソーシアム設置に関わっての方法

- ・コーディネーターと連携し、学校から直接趣旨を説明し了承を得た。
- ・コンソーシアム会議を開催し、学校側からあらためて趣旨や計画を説明するとともに、意見交換を図った。

(6) コンソーシアム会議における議題

資料 白3

4 組織化以外の成果等

- ・生徒アンケートで「白老のどんなところが好きですか」という問に対し、授業前は「自然が豊か」「食材が豊富」などの回答しか見られなかったが、授業後は「人が優しい、親切、魅力的な人や店が多い」など、授業前には全く見られなかった回答が出てきた。
- ・地域コーディネーターが地域や商店街に対して何度も訪問し、何かある度にお礼やお金を重ねたことで、地域の方々が高校を身近に感じてもらい、高校は地域の宝であるということを再認識してもらえるようになった。
- ・生徒が地域のお店のCM動画を制作した際には、地域コーディネーターが商店を訪れて制作中の動画に対する具体的改善策などを聞き取り、その後生徒に対して商店街の方々からの応援や頑張りを認める声を伝えたあとで改善点を伝えると、生徒の取り組む姿勢が向上し、より意欲的になった。
- ・地域の方々から「町に活気が出てきた」「自分たちも勉強になり、高校生と関わってうれしい」等たくさんの前向きな意見や応援の声をいただくことができた。
- ・複数のメディアに取り上げてもらうことで、高校に対する町民の認知度も徐々に向上してきた。
- ・あまり意欲的とはいえな生徒たちが、自分たちの制作した動画を地域の人たちから褒められ「やりがいを感じた」など、自己肯定感や自己有用感の高まりを伺えるような感想が出てきた。

資料 白 4

令和 4 年度 北海道CLASSプロジェクト実施計画書（2 年次）

学校名	北海道白老東高等学校
作成日	令和 4 年 6 月 2 日

1 今年度の目標と取組計画

月	取 組
2 年次 (R4) 【予定】	<p>(目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネーターが学校と地域との連携に止まらず、授業へも参加することで、授業の目標や課題を共有し授業計画や立案においても連携する。さらに本校のカリキュラムを把握し、学校の学びと地域づくりが一体となった教育活動の掘り起こしと推進を行う。 ・地域の人々との「対話」を重視し、人との繋がりを通じて地域の課題をともに理解し探究する活動を行う。 ・授業を通して興味・関心を高め、さらに生徒個人が発展的な地域活動に参加する取り組みをめざす。 ・取組を全学年に拡大する。 <p>(主な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークを通し地域の魅力や課題を発見し、外部に発信する取組。(3 学年) ・アイヌ文化への理解を深め、それを伝える取組。(2・3 学年) ・地域の方々との対話交流。(3 学年) ・地域の歴史や文化への理解を深めるための探究学習。(全学年) ・地域の各産業の方々との対話を通じた地域課題の把握、探究。(1・3 学年) ・仙台藩白老元陣屋資料館でのボランティアガイド活動への参加。(1・2 学年) ・その他、地域関係諸機関や外部の企業・団体等と連携した活動。(全学年)

2 今年度の検証の項目と方法

検証の項目	検証の方法
地域に対する興味・関心	アンケート調査による意識の変化
地域への課題意識の向上	アンケート調査による意識の変化

資料 白 4

3 今年度（令和4年度）の取組

月	コンソーシアム会議・関係者打合せ等	主な学習活動
4		町民との対話交流（5月） 地域の歴史（白老元陣屋）探究活動（6月） アイヌ文化学習（7月） 商店街のフィールドワーク（8月） 商店街紹介動画の制作（9～11月） 地域産業を知る探究活動（9～11月） 成果発表会（1月）
5	名古屋外大との連携打合せ	
6	第1回コンソーシアム会議	
7		
8		
9		
10		
11		
12		
1		
2	第2回コンソーシアム会議	
3		

4 小・中学校との連携を強める取組

町内の中学校の総合的な学習の時間の取組を視察する。
 白老中学校の総合的な学習の時間の成果発表会に参加し評価、助言を与える。

5 その他特記すべき事項